

快適で賑わいのある歩行者空間（地下歩道）を創出！

数世紀に渡る経済の中心拠点日本橋

- ◎既設地下歩道は、狭隘であるとともにバリアフリー化されていない状況。
- ◎日本橋は、全国に通じる5つの街道の起点であり、かつては政治、文化、経済の中心地として発展していたが、景気低迷により、賑わいを失いつつある。
- ◎一方、日本橋界限にて、更新時代を迎えた建物の建替えと共に再開発事業が具体化し、地域活性化の気運が高まりを見せている。

■位置図



■整備状況写真

【整備前】



平成22年10月8日現在



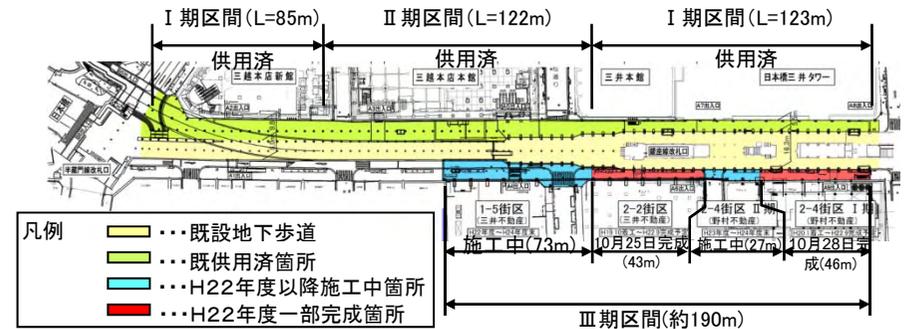
【整備後】



沿道再開発事業と一体となった歩行者空間

- ◎これまでの沿道再開発事業、地下歩道整備により、地上、地下の歩行者交通量が増加。（賑わいが復活）
- ◎地下歩道整備後は、利用者から地下歩道の快適性、利便性及び安全性が向上と高評価。

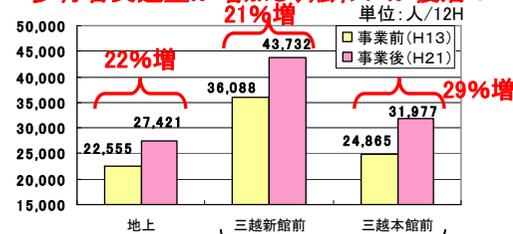
■地下歩道拡幅部平面図



■歩行者空間(地下歩道)の整備効果

【歩行者交通量の変化】

歩行者交通量が増加し、賑わいが復活！



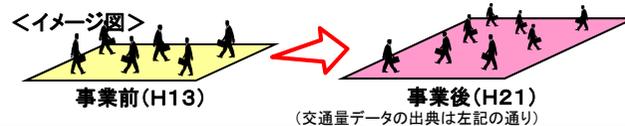
交通量データの出典は以下の通り
 事業前(地上): H11道路交通センサス値
 事業前(地下): H13.11.27歩行者交通量調査値
 事業後: H21.3.10歩行者交通量調査値

【地下歩道のサービス状況】

歩行者交通量の増加(賑わい)に加え、快適性が向上！

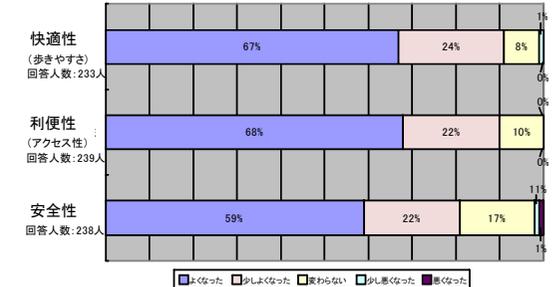
		ピーク時交通量 (人/時)	有効幅員 (m)	通行量有効幅員 (m/人・分)
三越新館前	事業前(H13)	5,981	8	0.08
	事業後(H21)	6,479	17	0.16
三越本館前	事業前(H13)	4,175	8	0.11
	事業後(H21)	5,625	16	0.17

<イメージ図>



【満足度(地下通路拡幅前後の評価)】

地下歩道利用の多くの方が拡幅以前に比べ、快適になったと評価！



(平成22年度東京国道事務所アンケート結果)